

<b>Title</b>	「キリスト教現実主義と新しい現実」（2013 年度 聖学院大学総合研究所 ラインホルド・ニーバー研究センター主催：ラヴィン教授特別講義）
<b>Author(s)</b>	五十嵐, 成見
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.1, 2013.9 : 27-28
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4605">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4605</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 2013年度 聖学院大学総合研究所ラインホールド・ニーバー研究センター主催 ラヴィン教授特別講義 「キリスト教現実主義と新しい現実」

2013年6月11日(火)聖学院大学ヴェリタス館教授会室において、聖学院大学総合研究所ラインホールド・ニーバー研究センター主催の特別講義が行われた。テキサス州ダラスにあるサザンメソジスト大学名誉教授のロビン・ラヴィン氏(Robin W.Lovin)を講師としてお招きし、「キリスト教現実主義と新しい現実」(“Christian Realism and the New Realities”)と題して、ご講演を賜った。参加者は62名であった。ラヴィン氏は、ニーバー研究の第一人者であると同時に、アメリカ・キリスト教倫理学会会長などを歴任されたアメリカ神学界における重鎮であられる。以下は、講演の要約である。

ニーバーが提唱した、政治と神学との関わりのアプローチの仕方を「キリスト教現実主義」と呼ぶが、その目指すところは、人間の可能性を最大限に引き出し、人間の悪に制限を設けるための法律や機関そして社会の取り決めの類を、明確にすることである。この目的のために、ニーバーは、戦前・戦後のアメリカ政治界において、注意深く、なおかつ大胆に預言者的役割を引き受け、明確な神学思想に裏打ちされた発言をなしていった。とりわけ、戦後の二極化された世界構造におけるアメリカの役割を重視し、新たな戦争を回避しつつ、



聖学院大学での特別講義風景

粘り強く世界秩序を構築のための可能性を主張した。そしてより重要なことは、その可能性にもましてアメリカ自身における己の限界・不完全を深く自覚する必要があることを鋭く主張したことである。そしてこの思想が、今日において、ニーバーに新たな注目を持たせることになっている。

冷戦以後、世界を取り巻く情勢は、一変した。世界の文明を構成する要素は多様化し、グローバル化され、複雑に関連しあっている。その多極化された世界構造においてこそ、キリスト教現実主義の視座は、より重要な位置を持っている。今日において、ビジネスと宗教は国家を横断する力を持った。そのような、冷戦以前とは異なった「新たな種類の勢力均衡」(政府・ビジネス・宗教・文化等)における新しい複雑な競争を、縮小させるのではなくして維持させながら、その秩序形成を、獲得していくことが求められている。

ラヴィン氏は、ニーバー以後の時代におけるキリスト教現実主義を「多元的キリスト教現実主義」と呼ぶことを提唱する。キリスト教現実主義は、これらの複雑な要素の秩序を維持するために努力するが、それはすなわち、それぞれ異なった種類の力が、より健全に作用することを配慮しながらも同時に、どれかの力が突出して強大になること



ロビン・ラヴィン教授(右前)、窪寺俊之教授(左奥)

を制限するためのアプローチを模索し続けていくことである。そこには神学的理解に基づいた知恵が通底している必要がある。それは、正義と秩序のあらゆるシステムに限界を見出し、いかなる力も神と混同しない政治的な英知、である。あらゆる要素における偶像崇拜（国家・宗教・企業など）への警鐘を鳴らす役割をキリスト教現実主義は担っているのである。

講演の後、活発な質疑応答がなされた。短い時間であったが、質の高い意見が交わされたことを記しておきたい。

（いからし・なるみ 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期過程）